

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471903136	事業の開始年月日	平成18年3月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	有限会社ライム倶楽部山下			
事業所名	グループホーム来夢の家			
所在地	(238-0046)			
	横須賀市西逸見町1丁目38番地			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2 ユニット	
自己評価作成日	平成23年10月26日	評価結果 市町村受理日	平成23年12月7日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・外出する機会を出きるだけ、多く設けるよう努めている。 ・町内会との交流を図り、様々な行事へ参加している。 ・季節を感じて頂けるような工夫を心がけている。 ・ご家族等と一緒にターミナルケアへ取り組んでいる。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成23年11月10日	評価機関 評価決定日	平成23年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】</p> <p>◇最期まで看取る「ついのすみ家」の実践 過去1年間、退所者の全てを最期まで看取っている。入居前に本人と家族の希望・意思を確認し、協力医の指導、看護師の支援を得て、指針にある「本人が望む場所で最期まで」を実践している。在宅で身内を看取る体験をした職員もおり、残された家族や仲良し仲間の癒しにも気を配っている。看取り後に経過を反省して今後に生かしている。</p> <p>◇日課のない暮らし・アットホームな雰囲気 「一人ひとりそれぞれ違う」との思いから、食事以外に決まった日課はなく、童歌を合唱する人、職員と会話する人など好きなように過ごしている。職員は、それを座卓で記録をつけながら見守っている。 入浴も好きな時間に入り、買い出しは、食パン1斤でも近くの商店へ職員と出かけるなど、集団生活で画一的なケアにならないように努めている。</p> <p>【事業所の工夫点】</p> <p>◇できないことの支援より、できることを探して役割作りをしている。生活歴などから、その人の得意技を見つけて役割をお願いしている。自分の前のテーブルだけ拭く役割もある。</p> <p>◇状況により、娘、妹、友達等を演じ分けてする会話、入浴や話相手の相性探しなど馴染み作りに工夫がある。美容師資格のある職員の髪カットサービスも馴染み作りに役立っている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム来夢の家
ユニット名	式番館

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し、各ユニットに掲示している。日々の生活において理念が反映されているか、定期的にミーティング等にて、管理者を交えて話し合いを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・「慈愛・尊敬・受容のこころをたいせつにする」理念を、事務室に掲示しパンフレットに掲載している。 ・「その人の家庭の延長が理念の実践」であることを念頭に、日常生活で理念の実践に努めている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に積極的に参加させて頂くと共に、ホーム主催の花火大会には町内の方々や近所の子供達にも参加して頂き、交流を図っている。また、定期的に民生委員が訪問してくれている。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会、民生委員など創設当初からの協力があり、町内の行事やホーム花火大会などでの交流が年々盛大になっている。 ・今年は祭礼自粛になったが、神社で祝詞を戴いた。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者・代表職員が中心となり、1回/月のミーティングや勉強会を開催、その中でグループホームの役割について、話し合うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの活動報告等と共に、質問・意見・要望等に応じ、それを職員全員に周知する機会を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> ・2か月毎に、町内会長、民生委員、利用者2名、家族1名が参加して開催している。 ・会議では地震対策、町内会の防災訓練への参加、ボランティア「親父バンド」の来演など、地域密着のテーマが多い。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に年に1度、福祉課職員が出席しているが、それ以外で直接会って話をする機会は設けていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・管理職が市グループホーム連絡協議会の役員で、行政や業界の情報を得ている。介護保険課とは日常的にメールを中心に連絡を取っている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に留意しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、申送り時やミーティングにて身体拘束防止について話し合うようにしている。	・運営規程、契約書、重要事項説明書には、行動制限をしない旨、明記してあり、職員はミーティングで検証し合っている。 ・点滴の際、家族が手袋を希望した例など“やむを得ない場合”はミーティング等で検討して決めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加すると共に、1回/月ミーティングや勉強会で職員に周知する機会をもつよう、心がけている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容を職員全員に周知するような機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必要事項の説明をしっかりと行い、御家族等と確りコミュニケーションをとるよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情等の受付窓口を明確化し、早期対応及び解決を図るよう努めている。また、管理者より職員へ指導を徹底している。	・玄関にご意見箱と記入用紙を備えている。また、「苦情受付窓口のご案内」も掲示している。 ・家族から出た要望などは、申し送りノートで共有をしている。 ・利用者・家族と馴染みになり日常会話から意見を引き出している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティングをふまえ、運営者と管理者とで話し合う機会を設けている。	・毎月のミーティングで話し合い、日々の気づきや疑問はその都度、管理者と相談し解決している。 ・待遇改善、給与などは、管理者が本社と話すようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により、個々のレベルアップを図れるよう、促しを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市による勉強会や研修に段階に応じた職員を参加させるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会を活用し、他の施設との交流を図れるよう、心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションを図り、不安なく、ご入居頂けるよう、また入居後も安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう、努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションを図り、不安なく、ご入居頂けるよう、また入居後も安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう、努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、お手伝いできる部分とできない部分を分析し、他サービスの利用方法等をお話しするようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の出来る事（得意なこと）を見極め、極力一緒に行える事柄を見つけ、楽しみながら、笑いながら、行えるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	町内行事にご家族等も一緒に参加して頂いたり、季節の行事・お誕生日会の際、ご家族等にも参加して頂き、同じ時間を共有することで他のご入居者様や職員のことを理解して頂けるよう、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の生活歴等を最大限考慮し、大切な思い出とともに生活して頂けるよう、努めている。また、ご家族等の協力も得ながら、知人・友人との交流も途切れないよう、配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントで、入居前の友人、趣味や行きたい所などを調べて、会話や散歩、買い物などに活している。 ・日常も昔馴染みの薬局、和菓子店へ出かけたり、神社への参拝や家族と墓参りをする人もいる。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、ご入居者様同士がより良い関係を構築できるよう、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業所との引き継ぎを確りと行なうと共に、介護方法や必要物品の調達等についてアドバイスを行っている。また、定期的に連絡を取り、介護者のストレスを軽減できるよう、支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動や表情から本人の意思を汲み取り、その人らしく、ホーム生活を送って頂けるよう、心がけている。	・アセスメントシートの各項目に思いやこだわりを聴く欄があり活用している。人の思いは、一人ひとり違うことを基本として接している。 ・肩を抱いたり、入居者のその時の思いに合わせ、娘や妹、友達等を演じ分けて聴いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族等と小まめにコミュニケーションを図り、これまでの生活歴等を把握し、職員全員が共有することができるよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の一人ひとりの全身状態を把握し、出来る事柄には積極的に参加して頂けるよう、努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族等とコミュニケーションを図りながら、ご家族等の要望をしっかりと取り入れたプラン作成を心がけている。	・管理者、計画担当、ケアリーダー、居室担当でカンファレンスを行い介護計画に反映している。 ・見直しは6か月毎とし、状況に変化があった場合は、その都度行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録への記入を小まめに行い、朝夕の申し送りの際には、確りと一人ひとりの状況を伝達できるよう、努めている。また、全職員が情報の共有をするため、申し送りノートを活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族等やご入居者様の要望に対しては、可能な限り対応できるよう、人員配置をはじめ、柔軟な支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着を心がけ、たくさんの方々に協力頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族等・ご入居者様が納得した医療を受けることができるよう、ホームドクター・管理者と共に確りと話し合っていて決めていくことができるよう、心がけている。	・契約時に重度化指針と共に、医療体制を説明し話し合っている。 ・徒歩3分の近くの協力医を、利用者全員かかりつけ医としている。 ・月1回心療内科の往診があるほか、必要時に歯科の往診もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日、看護師による処置やバイタル測定、採血等を行っている。また、職員に対してのアドバイスも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医やご家族等との話し合いを重ね、方向性を決めている。同時にホームドクターとの連携を図り、職員全員と情報共有を行い、退院に向けての準備等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームドクター・管理者が中心となり、ご家族等・ご入居者様の意向を汲み取れるようにしっかりと話し合い、方向性を決めている。また、それを職員全員で共有するよう、徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> ・対応指針があり、協力医、家族を入れて具体的に話し合っている。 ・1年間の死亡退所者4人全員を、このホームで最後まで対応した。 ・看取り介護の後、カンファレンスで良かった点、反省点を討議し、また心の癒しにも対応している。 	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回/月のミーティングの際、全職員が対応できるよう、講習会等を開催するよう、努めている。また、緊急時には管理者への迅速な報告を徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットの目に付くところに防災マニュアルを掲示している。2回/年(春・秋)には防災訓練を実施。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震対応マニュアルを見直して、地震情報の入手方法、停電や断水対策などを、具体的に決めている ・防災備蓄は屋外に、非常持ち出しザックは出口近くに保管している。 ・避難経路も至近の石段のほか、段差のない道も調べてある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄の見直し、計画停電対策までもできていますが、今後、海に近い立地から、津波ではどの避難経路を優先するかなど検討されることが期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者一人ひとりが気持ちよく安心してホーム生活を送る事ができるよう、個人情報の管理は徹底している。また、写真等掲示する場合には、ご家族等の了解を得るよう、心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の尊厳に配慮し、丁寧な言葉使いで声かけをしている。 ・名前は「さん付け」を基本に、状況により姓で呼びかけている。プライバシーの研修は、新任時と必要の都度ミーティングでしている。 ・個人情報は施錠し保管している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断・自己決定ができるよう、本人の話を傾聴するよう努めている。また、職員の都合で判断しないように注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者一人ひとりの生活歴に合わせ、また、一人ひとりのペースを大切にできるよう、日々心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員だけではなく、ご家族等の協力も得ながら、その人らしい生活ができるよう、また外出する機会を多く設けることができるよう、支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事への参加が困難であっても、その人にできることを危険のない範囲で、また強制的にならない程度に参加して頂いている。また、職員は必ずご入居者様と一緒に食事を摂っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・買出しは週2回、利用者と一緒にスーパーへ出かけ、献立は食べたいものや手持ちの食材から、その都度利用者と相談して決めている。 ・利用者は、調理、配下膳、テーブル拭きなど好きなこと、できることを職員と一緒にやっている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行い、個人別にまとめ、一日の摂取量が一目で分かるようにしている。また、排尿量等の観察も行い、脱水症状等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず歯磨き等の口腔ケアを行って頂けるよう、声かけや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握する為、排泄表を個人別に作成している。また、その人のリズムに合わせた支援を心がけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入居前の習慣や個人別排泄表などから、その人のリズムに合わせるようにして支援している。 ・見守り、声かけ、誘導によって失敗回避につなげ、利用者全員がトイレを使用している。 	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、朝夕に必ず排便状況の確認を行っている。小まめな水分摂取及び適度な運動を心がけるとともに、看護師と相談しながら内服薬の調整を行い、排便コントロールを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	安全に配慮し、可能な限りいつでも入浴して頂けるような体制を整えるよう、努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が見守りか介助を必要とするが、週2~3回入浴している。 ・浴槽の湯を一人ずつ入れ替え、「一番風呂です」と案内している。 ・職員との相性探しの結果、入浴するようになった事例もあり、現在入浴を拒む方はいない。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して眠って頂けるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服一覧表を用い、予薬時に確認している。また、申送りノート等に新しく処方された薬の名前・用法・用量等を記入し、全職員に周知するよう、努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者の得意・不得意を把握し、出来る限り、得意な事柄を活かしたホーム生活を送って頂けるよう、支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全職員がお散歩や買物等に対応できるよう、努めている。	・天気のいい日は、近くの神社や市民プラザへ、車いすの人も一緒に外気浴も兼ねて散歩している。また、食パン1斤でも、職員と近くの商店へ買い物に出かけている。 ・花見ときは、弁当を作って近くの海岸の公園に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにてご家族等よりお小遣いとしていくらかお預かりさせて頂いている。その中で日々、本人にとって必要な物を近所へ買物に行く等、心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族等と相談して個人で携帯電話を持って頂いたり、定期的にご家族等向けに葉書を送らせて頂いている。その際にはお一人ずつメッセージを書いて頂ける様、心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに外出時の写真を掲示したり、季節毎の飾りつけを行う等、暖かい雰囲気作りに努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生月の写真入りカレンダーや行事の写真のほか、紙細工の柿、ぶどう、クリスマス小物など季節を感じるものが飾ってある。 ・南向きのソファで語り合う利用者、食卓で職員と会話の利用者など、思いおもいのひと時を過ごしている。 	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置。テレビを観ながら寛いだり、新聞を読んだり、歌を唄ったり、団欒できるような空間作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、ご入居者が好きなものを置いて頂くことができるよう、配慮している。	<ul style="list-style-type: none"> ・居室入口には、のれんや手作りの季節飾りで自室を演出している ・造りつけ収納と洗面台以外は、馴染の家具や所持品を持ち込み、きれいに整頓している。 ・掃除好きの利用者と職員と一緒に居室の掃除やごみ出しをしている。 	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者一人ひとりの認知度に合わせ、段階を踏んで説明等を行い、混乱を防ぐよう心がけている。その人らしい生活を送って頂くことができるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作成し各ユニットに掲示すると共に、職員の目に付きやすい事務室等に掲示。又、定期的にミーティング等にて、管理者を交えて話し合いを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントにご入居者様と一緒に参加したり、ホーム主催の花火大会に地域の皆様や子供達をお呼びし、ご入居者様・ご家族様等と交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者・代表職員が中心となり、1回/月のミーティングや勉強会を開催。その中でグループホームの役割について話し合うようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では事業所からの報告と共に、質問・意見・要望等に応じ、それを職員全員に周知する機会を設けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に年1回出席している以外、担当者と直接会って話をする機会はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に留意しながら身体拘束をしないケアに取り組んでいる。又、身体拘束防止の為、申し送り時やミーティングの際に定期的に話し合うよう心がけている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加すると共に、フロアミーティング等にて話し合いを持つよう心がけている。ホーム全体で虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、その内容を職員全員に周知させる機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、必要事項の説明をしっかりと行い、ご家族様等・ご入居者様としっかりコミュニケーションを取るよう心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの入り口にご意見箱を設置し、ご入居者様やご家族様にご意見を頂けるようにしている。又、苦情等の受付窓口を明確化し、管理者より職員への指導を徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のミーティングをふまえ、運営者と管理者とで話し合う機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得により、個々のレベルアップを図れるよう促しを行っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や市による勉強会や研修に段階に応じた職員を参加させるよう心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	協議会を活用し、他の施設との交流を持つよう心がけている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションをとり、不安無くご入居頂けるよう、又、ご入居されてからも安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分にコミュニケーションをとり、不安無くご入居頂けるよう、又、ご入居されてからも安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際には、お手伝い出来る部分と出来ない部分を分析し、他サービスの利用方法等をお話するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ家事等を沢山のご入居者様に参加して頂けるようにし、楽しみながら、笑いながら行えるよう心がけている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	町内イベントと一緒に参加して頂いたり、季節の行事・お誕生日会の際にもご家族様等にもご参加頂く等、同じ時間を共有することで、ご本人が安心して生活されていることを知って頂けるよう、心がけている。又、他入居者様のことや職員のこととも理解して頂けるよう、努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様が普段お買物をされていた場所で、ご入居者様ご本人がお買物をしたりすることが出来るよう、出来るだけ支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通し、認知症が高度のご入居者様も、そうでないご入居者様もうまく仲間意識を築くことが出来るよう、支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	居宅介護支援事業所との引き継ぎを確り行うと共に、介護方法や必要物品の調達等についてアドバイスを行っている。また、定期的に連絡をとり、介護者のストレスを軽減できるよう、支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	なるべく自室に以前からの愛用品を置いて頂くことで、ご自宅で生活されているような感覚でホーム生活を送ることが出来るよう心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様等とこまめにコミュニケーションを図ると共に、これまでの生活歴等を把握し、職員全員が共有することが出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のお一人おひとりの状況に応じ、出来る事柄には積極的に参加して頂けるように努めている。又、身体状況等により、医師・看護師と相談を行いながら休んで頂く時間を設ける等、配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必要に応じ、ご家族様等にご参加頂き家族カンファレンスを開催している。ご家族様等の要望をしっかりと取り入れたプラン作成をするよう心がけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	こまめに個人記録へ記入し、朝夕の申し送りの際にしっかりとお一人おひとりに対し申し送るよう心がけている。又、全職員情報共有する為、申し送りノート・看護師ノート等を用意し、活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様等やご入居者様の要望に対しては、出来る限り対応するよう人員配置に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域密着を心がけ、町内会長や民生委員を初めとし、たくさんの方々に協力頂き、町内の皆様主催による体操や盆踊り大会等を当ホームにて開催している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様等・ご入居者様が、きちんと納得して医療を受けられるよう、ホームドクター・管理者と共に確りと話し合っ決めて頂くことが出来るよう、心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日看護師による処置やバイタル測定、採血等行っている。また、職員に対してもアドバイス行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医やご家族様等との話し合いを重ね、方向性を決めている。同時にホームドクターとの連携を図り、職員全員と情報共有を行い、退院に向けての準備を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームドクター・管理者が中心となり、ご家族様等・入居者様としっかり話し合い、方向性を決めている。又、それを職員全員で共有するよう徹底している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	1回/月のミーティングや勉強会の際に、全職員が対応出来るよう講習会を開催する等している。また、緊急時には管理者への迅速な報告を徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットの目のつく所に防災マニュアルを掲示している。2回/年、春と秋に防災訓練を実施。消防署や地域の方々にご協力頂き、大規模で防災訓練を実施するよう努めている。他、地震を想定したホーム内での津波避難訓練等も実施するよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様一人おひとりが、気持ち良く安心してホーム生活を送って頂くことが出来るよう、個人情報の管理は徹底して行っている。又、写真等掲示する場合はご家族様等へ了解を得るようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己判断・自己決定が出来るよう、マンツーマンでお話させて頂く等、対応に配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様一人おひとりの生活暦に合わせ、お一人おひとりのペースを大切にするよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員だけではなくご家族様等にもご協力頂き、おしゃれをしたり、外出をしたりする機会を多く設けることが出来るように心がけている。又、女性が多い為、ご希望に応じ、顔ざりやお化粧を定期的に行い楽しんで頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員だけで作るのではなく、なるべく多くの方に参加して頂くことが出来るよう工夫するようにしている。又、小さなことでもご自分で選ぶことが出来るよう、選択肢を設けるように心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分量のチェックを行い、個人別にまとめ、一日の摂取量が一目で分かるようにしている。摂取量の少ない方に対しては、状況に応じて高カロリードリンクや代替品を召し上げて頂くよう心がけている。又、排尿量等も観察を行い、脱水症状等の予防に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず歯磨き等の口腔ケア行ってもらえるよう、お声かけや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレにて排泄して頂けるよう、排泄表を各個人で作成。記録を取ることで、お一人おひとりの排泄パターンの把握に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝・夕必ず、排便状況の確認を行うよう努めている。又、出来る限りお散歩に行ってもらい、気持ち良く歩いて頂くよう心掛けている。看護師にも定期的に相談を行い、その都度指示を頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	安全に配慮しながら、出来る限り、いつでも入浴して頂ける体制を整えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様お一人おひとりに合わせ、安心して眠って頂けるように支援している。ご希望があれば添い寝等も行うよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご入居者様お一人おひとりに対し現在処方薬の名前や用法・副作用が記載されたものを個人別にファイリングし保管。全職員が目を通すことが可能な状態にしている。新しいお薬に関しては申送ノート等に名前・用法・用量等細かく記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の得意・不得意を把握し、なるべく得意な事柄を活かして、ホーム生活を送って頂くことが出来るよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特定の職員に限らず、全職員がお散歩やお買物等対応出来るよう努めている。ホームの近所に買い物に行くことで馴染みの関係を作るよう心掛けてもいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームにて、ご家族様等よりお小遣いとしていくらかお預かりさせて頂き、出来る限り近所へお買物へ行く際には、お金を普段持たれない方でも、ご自分の物をご自分で払って頂くことが出来るよう心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様等と相談し、個人で携帯電話を持って頂いたり、定期的にご家族様向けに葉書を送らせて頂き、お一人ずつメッセージを書いて頂けるよう、心がけている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに皆で行った外出時の写真を掲示したり、季節に合わせた飾りつけ等を行い、暖かい雰囲気作りに努めている。又、ご自分で季節の絵に色を付けて頂き、それを掲示するようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置。テレビを観ながら寛いだり、仲の良い方同士でお喋り等が出来るような空間作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮しながら、ご入居者様がお好きな物を置いて頂くことが出来るよう配慮している。又、出来るだけご本人と一緒に毎日の掃除や季節の衣替え等を行い、ご本人と相談しながら行うよう心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご入居者様お一人おひとりの認知度に合わせ、段階を踏んで説明等を行い混乱を防ぐよう心がけている。その人らしい生活を送って頂くことが出来るよう支援している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム来夢の家

作成日

平成23年12月4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	海に近い立地から津波ではどの避難経路を優先するか等を検討することが必要。	火災・地震とは別に津波避難訓練を繰り返し行うことで全職員に避難経路を周知していく。	防災担当者を中心に避難経路の検討を行い、実際に訓練に繋げていく。また、町内会や消防との連携を図り、色々な方からのアドバイスをもらい、より安全な避難経路を決定していく。	1年
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。